（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	1	課題区分	C
横断的な課題	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				
地域重点政策	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久保健福祉事務所、東信教育事務所	担当課	所属	佐久保健福祉事務所 東信教育事務所
事業名	健やか佐久プロジェクト ～知ろう！食べよう！体を動かそう！みんなで健康づくり・フレイル予防～		電話	佐保福　0267(63)3163 東信教　0267(31)0250
			E-mail	sakuho-kenko@pref.nagano.lg.jp toshinkyo@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等

目的（目指す姿）	今後増加が見込まれる高齢者が健康的に長生きするために、高原野菜の産地であること、ポールウォーキング等の産業立地などの佐久地域の特徴を生かして、県民一人ひとりが日常的にスポーツに親しみ、ライフステージに応じた食生活や運動を実践する機会を提供し、県民の健康増進を図る。
現状と課題	○県民の平均寿命と健康寿命の差は、男性10.13歳、女性13.24歳で、高齢期を健康で過ごすことが課題。 ・長野県平均寿命（男性82.68歳（全国2位）、女性88.23歳（全国4位）） ・長野県健康寿命（男性72.55歳（全国30位）、女性74.99歳（全国37位）） ○健康で長生きするためには「食べること」（食育）「体を動かすこと」（運動）のどちらも重要である。特に高齢期を健康で過ごすこと、つまり「フレイル」を予防することが重要であることから、地域全体でフレイル予防に対する機運を高め、「健康に食べる」、「身体を動かす」機会を増やす必要がある。 ○本事業にてR5年度に作成したフレイル予防リーフレットは、市町村における佐久地域の高齢者を対象とした各種教室はもとより、ボランティア団体の自主学習や通いの場など広く活用されており、大変好評である。また、運動講師派遣事業についても、ボッチャやポールウォーキングを気軽に体験できると評判になっており、公民館事業等で活用されている。 ○食生活改善や運動に取り組む健康ボランティア団体への聞き取りによると、「後継者がいない」「メンバーが高齢化している」との課題を抱えている。新たなボランティアのメンバーの掘り起こしが必要である。
内容（変更後の内容）	①連携推進のための会議開催（R7.6.24、R7.8.4） ○佐久地域関係機関、団体等（食育推進ネットワーク会議、ずく出すネットワーク会議構成団体）の活動状況や協働機会の 検討、普及啓発活動について検討を行った。 ②「放課後けんこう倶楽部」（健康ボランティア養成講座）の開催（R7.7.8～R8.2.10　計11回） ○シニア大学の放課後時間に希望者に対して、食生活の見直しやフレイル予防に関する講座を開催した。 講座の講師として、現在佐久地域で活動する介護予防ボランティア団体等が担当した。 ボランティア団体の実践報告を聞き、模擬教室を体験することで、参加者自身の健康意識の向上とシニア大学卒業後の進路選択 の一つを示し、新たなボランティアメンバーへつながることを期待し開催した。 ③健康づくり・フレイル予防のための普及啓発事業（R7.5～R8.3） ○健康づくり・フレイル予防実践講座への講師派遣（さくっとずく出す！健康づくりセミナー）（R7.6.8～R7.12.22　計7回） ・各種団体が開催する健康教室への講師を派遣し、ポールウォーキングやボッチャなど取り入れた体験主体の講座 やフレイル予防のための食事づくりの調理実技講習等を展開した。 ○健康づくり・フレイル予防普及啓発活動（随時） ・関係機関・団体でのフレイル予防リーフレットを活用した普及啓発活動 ・ニュースポーツ等の運動用具の貸出 ○普及啓発フォーラムの開催（R8.2.20）
事業期間	R7.4　～　R8.3			

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
①連携推進のための会議の開催	推進連絡会議の開催	15,000	
②「放課後けんこう倶楽部」の開催	健康ボランティア養成講座の開催	163,783	
③健康づくり・フレイル予防のための普及啓発事業	各種教室への講師派遣、普及啓発資料の印刷・配布、フォーラムの開催　等	325,827	
合　計		504,610	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	「放課後けんこう倶楽部」の実施	6回以上、延べ150名以上（R7新規）	11回、延べ222名	◉達成 ○一部達成 ○未達成
	健康づくり・フレイル予防実践講座への講師派遣回数及び参加者数	7回以上、150人以上	7回、延べ183名	
	健康づくり・フレイル予防普及啓発活動 ①関係機関・団体等を通じたリーフレット活用実績 ②運動用具貸出実績	①2000部（R7新規） ②30回以上（R6:86回）	①2460部 ②136回	

事業実績・成果	○今年度からシニア大学佐久学部の協力の下、シニア大学講義終了後に「放課後けんこう倶楽部」を開催した。初の取組であったが、体操やヨガ、レクリエーションなど体験を中心とした講座内容が多く、参加者から好意的な感想が多く寄せられた。（満足度4.37点/5点満点中）講座を通して、地域で活躍するボランティアの活動を身近に感じ、具体的な活動をイメージすることができた。なお、この取り組みは「令和7年度健康づくり研究討論会」にて、実践報告を行い、好事例として県内関係機関へ紹介した。 ○講師派遣については、昨年度と同程度の派遣希望があった。数年間、継続的に実施してきた結果、講師と派遣希望団体等との顔の見える関係を作ることができた。 ○過去に本事業で作成した「なから分かる！フレイル」リーフレットを公民館や通いの場で活用してもらうことや、佐久地域で採れる野菜等を使った「野菜料理レシピ」の募集、作成、配布を行った。普及啓発は、連携推進会議のメンバーを中心に各機関・団体を通じて、佐久地域へ広く普及啓発することができた。
今後の方向性	「放課後けんこう倶楽部」を継続的に開催し、シニア大学生とボランティア団体との接点を作り、地域活動へつないでいく。カリキュラム内容について見直しを図り、食生活分野等の内容も入れて、より幅広い「健康づくり」について学び、実践できるような内容としていく予定。 講師派遣については、講師と団体等のつなぎ役は十分果たしたため、次年度は実施しないこととする。 連携推進会議メンバーを中心に引き続き健康づくり・フレイル予防について普及啓発するとともに、街頭キャンペーンを開催し、報道機関等も巻き込み、さらに広く啓発できるよう工夫しながら実施していく。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C
横断的な課題	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				
地域重点政策	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	佐久平プレメディカルケア産業創出事業		電話	0267-63-3158
			E-mail	sakuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	健康長寿の先進地としての地域特性を活かし、病気の予防、早期発見・治療、健康増進等に関わるプレメディカルケア産業の創出を実現するため、地域の企業と医療機関・介護福祉施設が連携して、ものづくりとサービスが一体となった新たなビジネスモデルとなる製品開発を行う。
	現状と課題	これまでの成果として、新たな商品開発を行う個別プロジェクトを19件行い、このうち11件の製品で販売実績が得られた。 課題として、参画する企業の技術分野が限定される傾向が見られるとともに、事業化した製品の売上の拡大に時間を要していることが挙げられる。よって、商品開発に参画する企業のすそ野を広げるとともに、事業の立上げをより迅速に行えるよう、より現場ニーズを的確に捉えた開発プロセスを構築する必要がある。
	内容（変更後の内容）	1　プレメディカルケア産業創出プロジェクト運営業務 　産業支援機関である（一社）佐久産業支援センター（SOIC）が中心となり、地元企業と医療機関・介護福祉施設との連携による新たな製品の試作開発と事業化に向けた販路開拓を支援した。 　具体的には、より参画企業の幅を広げたオープンイノベーションWG、およびその配下の医療介護現場改善分科会活動により、これまでの病院に加えて介護施設からも現場ニーズの吸上げ・課題の深堀りを行い、地元企業が有するシーズで解決できないか分析・検討を行って、的確な事業化判断、効率的な販路開拓につなげた。 2　上記運営業務に付帯する市場調査・販路開拓事業 　当事業のINPUT（トレンド、ニーズ）およびOUTPUT（製品、販路）の範囲を拡げるため、国際福祉機器展にブースを出展し、健康産業都市「SAKU」をアピールするとともに、プロジェクトで試作された開発品及び事業紹介パネルを展示した。また、市場の動向を調査し、次の開発品への足掛かりとするために、産学医連携チームによる調査・分析を行った。 　○ 国際福祉機器展での展示・市場調査　会期：令和7年10月8日～10日（3日間）
	事業期間	令和7年4月　～　令和8年3月

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
プレメディカルケア産業創出プロジェクト運営業務	新たな製品の試作開発・販路開拓支援	625,900	
市場調査・販路開拓事業	国際福祉機器展における展示・市場調査	940,840	
合　計		1,566,740	

指標及び達成状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
医療・介護現場等での製品開発着手数	2件	2件	◉達成　○一部達成　○未達成
展示会での取引商談件数	5件	6件	

事業実績・成果	【実績・成果】 ・地域企業が有する加工技術等を活用し、医療介護現場ニーズに対応した新たな開発製品2件に着手した。また、今年度5件の開発製品で2億4千万円余りの売上実績があった。 ・国際福祉機器展（来場者数約12万人）において、開発製品5件を出展し、来場者から、名刺交換、カタログ請求など423件の反応があり、そのうち、6件のより具体的な商談実績を上げることが出来、新たな販路開拓の足掛かりを得ている。
今後の方向性	健康長寿に係る地域独自の取組として、個別プロジェクトの事業化を推進するとともに、参画企業を増やし、医療介護現場の課題の掘り起こし・市場調査等から開発製品の事業化まで、一貫した推進体制を構築する。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C
横断的な課題	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				
地域重点政策	「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活の基盤づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	環境・廃棄物対策課
事業名	ゼロカーボンライフスタイル普及事業		電話	0267-63-3230
			E-mail	sakuchi-kankyo@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	気候変動に向けた佐久地域の先進的な取り組みを一般県民が知り、環境に配慮した生活を体験する機会を設けることにより、ゼロカーボンなライフスタイルの普及を図る。
	現状と課題	・人間の活動でCO2などの温室効果ガスを多量に排出することにより地球温暖化が進み、気候変動による災害が多発する可能性がある。 ・これまでの事業において、温室効果ガスの排出量を削減する「緩和」や、気候変動の悪影響を軽減してよりよい生活とする「適応」をテーマとし、行政や企業の担当者、一般の方などを対象とした研修会を開催してきたが、現状や原因、対策などの総合的な理解はなかなか困難なこともあり、普及するうえでの課題となっている（ゼロカーボン戦略の2030年目標について、現状ペースの進捗では削減量126万t-CO2不足し、達成困難であることが判明【参考：長野県ゼロカーボン戦略ロードマップ】）。 ・気候変動による生活環境への影響を身近にとらえてもらうことで、「緩和」や「適応」について考えるきっかけが必要である。
	内容（変更後の内容）	・昨今、佐久地域においても放置竹林の問題が顕在化している。竹の旺盛な繁殖力により他の植物が淘汰される懸念などがあり、その一因として気候変動の影響も指摘されている。 ・講演会1により、気候変動全般や、温室効果ガス排出量削減に係る生活の知恵について学ぶ。 ・講演会2により、県内や佐久地域の竹林の状況や気候変動による影響について学ぶ。 ・講演会3により、長野県のゼロカーボン戦略等の施策について学ぶ。 ・体験会により、目に見えない温室効果ガスを重さで体験してもらったり、竹の活用方法等を紹介することで、「緩和」や「適応」について考えるきっかけとする。 日時：令和7年12月15日(月)14時から16時まで 場所：佐久合同庁舎5階講堂 事業内容：講演1(地球温暖化防止活動推進センター 地球温暖化防止活動推進員 鈴木講師) 講演2（長野県環境保全研究所研究員　高野講師） 講演3（長野県ゼロカーボン推進課ゼロカーボン戦略推進係長　三井講師） 体験会（佐久地域振興局環境・廃棄物対策課　大木主任、millplot） 参集者：一般県民及び管内関係者
	事業期間	令和7年11月　～　令和8年1月

（単位：円）

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
	ゼロカーボンミーティング	講演会と体験会	32,860	
	合　計		32,860	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	ゼロカーボンミーティングの参加者数(R6実績：52人)	30人以上	53人	◉ 達　成 ○ 一部達成 ○ 未達成

事業実績・成果	【実績】 ・「気候変動 わたしたちにできること」をテーマに、地球温暖化防止活動推進センター 地球温暖化防止活動推進員 鈴木講師、「気候変動影響・竹林増加への対策」をテーマに、長野県環境保全研究所　高野講師、「2050ゼロカーボンの実現に向けた県の取組」をテーマに、長野県ゼロカーボン推進課三井講師が、講演を実施。 ・CO_2重さ体験会や竹林問題を楽しく解決する取組の展示を実施。 【成果】 ・鈴木氏の講演により、参加者個人でできる具体事例を示すことで、身近に感じてもらうきっかけとなった。 ・高野氏の講演により、竹林管理の実情や複合的な課題を把握するとともに、具体的な取組事例や成功事例について示すことで、竹林問題を身近に感じてもらうきっかけとなった。 ・三井氏の講演により、長野県ゼロカーボン戦略の現段階の達成状況、課題とその見直しのポイント、及び県で実施している取組内容について、知識を深めることができた。 ・CO_2重さ体験会でのCO_2の大きさや重さの視認・体感や、展示コーナーでの淡竹パウダーの展示などにより、参加者に環境問題をより身近に感じてもらうきっかけを与えることができた。
今後の方向性	地球温暖化は中長期的な課題であるため、その影響を受ける世代となる現在の子供たちが、自らの将来について考えるきっかけとなるよう、地球温暖化を学び、対応策を実体験してもらう。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	佐久農業農村支援センター
事業名	佐久地域農畜産物地消地産推進事業		電話	0267-63-3167
			E-mail	saku-nogyo@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	佐久地域の宿泊施設における佐久地域産農畜産物の利用拡大を図るため、関係機関と連携し地消地産の地域内流通体制を検討し、佐久地域産農畜産物を使用する宿泊施設の増加を目指す。
	現状と課題	・令和5年度の佐久地域の宿泊施設に対するアンケート調査結果より、佐久地域産農産物を利用している施設の主な仕入れルートは、流通業者、農産物直売所等であることがわかったものの、佐久地域産農産物に魅力等を感じ仕入れている施設の割合は低かった。 【アンケート調査結果】 佐久地域産農産物を利用している宿泊施設率：86% このうち、佐久地域産農産物の仕入れ先が流通業者（45%）、農産物直売所（55%） このうち、意識的に佐久地域産農産物を利用している宿泊施設：55% ・令和6年度は農産物直売所見学会の開催や直売所販売農産物リストひな型作成・配布等を行ったが、引き続き、流通業者、農産物直売所等を利用した、地消地産に取組みやすい体制を検討する必要がある。 ・宿泊施設では農産物の情報やこだわり等の情報提供を求めているが、十分に提供できていない状態である。
	内容（変更後の内容）	○市場流通の実情確認と既存ルートを利用した新たな流通方法の検討 令和6年度に作成した直売所リストの活用状況の聞き取りを実施した（11～12月）。 ○宿泊施設等に対する佐久地域産農産物、こだわり農産物の魅力発信 ・知る機会の提供（6～9月、軽井沢ホテル旅館組合例会時） 軽井沢ホテル旅館組合に加盟している宿泊施設に対し、佐久地域産プルーンを提供し、メニューへの利用を促した（3回）。 提供した宿泊施設に対して、プルーンの継続的な利用の可否等について聞き取り、アンケートを実施した。 ・こだわり農産物の魅力発信レシピ集と調理動画の作成と情報公開（2月～3月） 佐久平調理師会と連携し、佐久地域産農産物（レタス、佐久鯉、牛乳等）を旬の時期に使用したメニューを3レシピ開発し、レシピ集を300部作成、宿泊施設や直売所等に配布した。また、調理事例動画を作成し、県公式YouTubeチャンネルにアップするとともに、宿泊施設に情報提供した。 ○直売所に対する取組 持続可能な直売所運営を目的として直売所交流会を開催し、講演やワークショップを行った（2月）。
	事業期間	令和7年5月　～　令和8年3月

（単位：円）

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
	流通ルートの強化	流通関係者等との打合せ モデル地区の設定	0	
	リストのバージョンアップ	直売所販売農産物リストの 掲載情報の見直し	0	
	知る機会の提供	プルーン提供	65,000	
	こだわりの農産物の魅力発信	調理動画作成	285,800	
	直売所交流会	直売所の意欲向上に向けた 研修会の開催	16,490	
	合　　計		367,290	

達成状況及び指標	成果指標	目標値	成果	達成状況
	流通体制モデル地域の設定	1カ所	1カ所	◉ 達　成 （ ）一部達成 ◯ 未達成
	知る機会の提供に係るプルーン利用宿泊施設数	3施設	13施設	
	直売所交流会に係る参加直売所数（令和6年度：5施設）	7施設	8施設	

事業実績・成果

○市場流通の実情確認と既存ルートを利用した新たな流通方法の検討
　宿泊施設に対し直売所リストの活用状況の聞き取りを行った結果、直売所により様式等が異なり、共通したリストでは使いにくいとの意見を多数得た。

○宿泊施設等に対する佐久地域産農産物、こだわり農産物の魅力発信
　軽井沢ホテル旅館組合で地元産農産物を使用した施設13施設に対するアンケート結果では、地元産プルーンに対する認識が深まった、今後も継続して使用したいとの評価を得た。
　こだわり農産物レシピ集を300部印刷して宿泊施設や直売所等に配布した。また、レシピ集に記載されたレタス、佐久鯉、牛乳等を使用した調理動画を長野県公式YouTubeに掲載し、再生数は令和8年4月21日時点で361回である。

○直売所に対する取組
　直売所交流会を2月に開催。8直売所28名が参加し、持続的な直売所運営に関する講演や、それぞれの直売所の問題や課題を把握し解決するためのワークショップを行った。直売所間の交流を通じた経営安定や情報交換の促進が図られた。

今後の方向性

○市場流通の実情確認と既存ルートを利用した新たな流通方法の検討
　JA等と直売所などを活用した地元農産物の流通ルートについて引続き検討する。
　直売所リストの活用について、共通したリストの活用とともに、個別の直売所で使用している既存の様式に基づいた個別指導についても検討する。

○宿泊施設等に対する佐久地域産農産物、こだわり農産物の魅力発信
　地元産プルーンの今後の継続した利用の促進について検討する。
　令和7年度に作成したレシピ集や動画を活用して進めていく。

○直売所に対する取組
　直売所の運営安定について、個別相談や交流会などを通じて支援する。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	佐久農業農村支援センター
事業名	生食プルーンの美味しさを佐久地域から発信！		電話	0267-63-3145
			E-mail	saku-nogyo@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	・佐久地域特産果樹の地元消費（菓子などの加工品含め）を定着させ、より活発となるよう、生食プルーンを味わうメニューが組み込まれたツアーやイベントを定着・発展させ、佐久地域特産果樹の魅力発信に寄与する。 ・需要に応える高品質なプルーンの栽培が盛んに行われ、特に県オリジナル品種の「オータムキュート」が県内の最大産地となるよう、生産振興に努める。
	現状と課題	・佐久地域は生食プルーン生産発祥の地として、県と生産者が協同し、完熟収穫に必須である雨よけ栽培技術を確立する等「佐久特産くだもの」としてプルーンを産地化した歴史がある。 ・一部市場関係者から生食プルーンの認知度が低いという指摘があることから、市場調査及び生産振興に加え認知度向上戦略が必要。そのため、令和5、6年度に作成したリーフレットを活用しながら、プルーンを知ってもらうことが課題。 ・令和6年度には佐久市内のケーキ店5店舗で、プルーンを活用したスイーツを楽しむスタンプラリーイベントを9月下旬から10月中旬の約2週間で実施し、79名がイベントに参加した。プルーンの認知度を上げるためには市場を拡大させる必要があり、佐久市、佐久穂町と連携し、当該イベントを拡大し、一般消費者にPRできる効果的なスタンプラリー企画を実施することが課題。
	内容（変更後の内容）	生食プルーンの認知度向上と魅力発信に向け次の内容を実施。実施に当たっては公募型プロポーザル方式で事業提案を募集し、事業者を選定した。 ①佐久地域内のパティスリー、観光農園、直売所等が参加するプルーンを活用したスタンプラリー形式イベントを開催 ・佐久地域のケーキ店4店舗（佐久市、佐久穂町）、観光農園1園（佐久穂町）、直売所1店舗（佐久穂町）で開催（9月13日(土)～10月13日(月・祝)）。 ・佐久地域在住者がプルーンの魅力を再発見でき、地域外の方がプルーンの美味しさに気づき、また多くの方に対象店舗等へ足を運んでもらえるよう、スマートフォンからも参加できるイベントとした。 ・スタンプラリーイベントの達成者は64名 ・ケーキ店が使用するプルーンの品種は、「サマーキュート」、「くらしま」、「サンプルーン」、「オータムキュート」等とした。 ②生食プルーン認知度向上の促進 ・「佐久地域特産くだもの」であるプルーンの認知度向上を図るため、メディアやSNS等を活用したPR活動を実施した。
	事業期間	令和7年4月　～　令和8年3月

（単位：円）

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
	①プルーンのスタンプラリーイベントの開催	佐久地域内のパティスリー等が参加するプルーンを活用したメニューを楽しんでもらうスタンプラリー形式イベントを開催する	1,555,400	
	②生食プルーンの魅力発信	宣伝媒体を活用し、プルーンの魅力発信を行う		
	②生食プルーンのSNSによる魅力発信	SNS発信用の記事制作	0	
	合　計		1,555,400	

	成 果 指 標	目標値	成果	達 成 状 況
指標及び達成状況	①スタンプラリー達成者	100人	64人	○ 達　成 ◉ 一部達成 ○ 未 達 成
	①アンケートにおけるイベント満足度調査 回答者のうち、「イベントにまた参加したい」と答えた者の割合	7割	10割	
	②生食プルーンを普及するためのSNS等の記事制作・配信 SNSへのアクセス数	1000回以上	10,793回 （長野県公式LINE、長野県公式X、魅力発信ブログ累計）	

事業実績・成果	①令和7年9月13日（土）～令和7年10月13日（月）に佐久地域産のプルーンを使ったスイーツや生のプルーンの購入、プルーンのもぎ取りを対象としたスタンプラリーを開催し、スタンプラリー達成者は64人だった。同イベントにおいて実施したアンケートからは、佐久市以外の上田市、長野市等県内からの参加者に加え、県外からの参加者もいたことから、地元消費の定着のみでなく、県外消費者が佐久地域に来訪するきっかけづくりにも貢献できたと考えられる。イベント参加者の年齢層は50～60代が多く、若い世代の参加が少なかったことから、今後将来にわたってプルーンを地域の特産として定着させるために、幼少期からプルーンに慣れ親しんでもらうべく、子育て世代等若年層が参加しやすい、情報を得やすいイベントにすることが課題。 ②生食プルーンの普及を図るため、スタンプラリーイベントの特設Webページに、プルーンを紹介するページを開設したほか、スタンプラリー応募用紙やラジオ番組等を活用し、食べ方の紹介、旬の時期等について情報を発信した。スタンプラリーを契機として実施したアンケートからは、県内外を問わず、プルーンを生で食べたことがある人や、佐久地域がプルーンの産地であることを認知している人が多く、全体として認知度が高い傾向がみられた。一方、関東1都3県および長野県から対象者を無作為に抽出して実施したアンケートからは、県内外を問わずプルーンに関する認知度は低い傾向にあった。これらの結果から、県内外を問わず、プルーンに関心のある層と関心のない層が明確に分かれていることが示唆された。したがって、プルーンの生食を普及させるためには、まずプルーン自体への関心を喚起する取組を実施することが課題。
今後の方向性	幼少期から地域の特産に慣れ親しんでもらうべく、子育て世代を狙ったスタンプラリーイベントを企画する。イベントを通じて生食用プルーンの認知度向上と生産の拡大に取り組む。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	林務課
事業名	狩猟者育成のための狩猟体験・魅力発信事業		電話	0267-63-3152
			E-mail	sakuchi-rimmu@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	狩猟者の増加と若返りを図り、加害鳥獣捕獲の担い手の確保と地域への定着を目指す。
	現状と課題	佐久地域の野生鳥獣（特にニホンジカ）による農林業被害は増加傾向にあり、加えて近年は森林生態系破壊や山地荒廃が危惧されている。一方、被害対策の柱となる捕獲に関しては、狩猟者数が高齢化等により減少傾向にある。また、狩猟者により捕獲されるニホンジカは年間約7千頭で、その多くは活用されず処分している状況である。現在、新規狩猟者の確保とジビエの活用が課題となっている。
	内容（変更後の内容）	ニホンジカ(有害鳥獣)の捕獲体験や獲物の解体見学・体験のため、公募型プロポーザルによる事業提案を踏まえ、以下のとおり研修会とワークショップを実施した。 なお、いずれもターゲットは若年層や狩猟を始めて3年以内の初心者で、親和性の高い農業・林業従事者、移住者（半農半X）とした。 ①「狩猟入門コース」の開催 【日時】10月4日（土）9時～16時 【場所】佐久穂町有林（佐久穂町大字八郡1023） 【内容】鳥獣の基礎知識についての講習、わな猟体験、シカ解体体験 【参加者】14人 ②「スキルアップコース」の開催 【日時】11月8日（土）8時30分～15時 【場所】御代田町内の山林（御代田町大字草越183-1） 【内容】わな猟体験、模擬銃を用いた銃猟体験、最新捕獲技術の体験 【参加者】14人 ③狩猟ワークショップの開催 【日時】2月8日（日）10時～12時 【場所】コードマーク御代田（御代田町大字面替995） 【内容】先輩狩猟者と狩猟活動についての不安や悩みを相談、意見交換 【参加者】6人
	事業期間	R7.6 ～ R8.3

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考
狩猟関連イベントの開催	狩猟関係者・解体施設関係者等によるイベントの企画・運営	898,700	
合　計		898,700	

達成指標及び状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
イベント参加者	20人	34人	◉達成
			○一部達成
			○未達成

事業実績・成果

・捕獲技術の実技講習をメインとする入門コース（1日）とスキルアップコース（1日）、狩猟に関するワークショップ（1日）を実施し、各回10名程度に参加いただいた。アンケート結果から、参加者の満足度は一定程度あり、狩猟参加意欲の向上が確認できた。実技講習については、猟具の解説や解体体験などの実践的な内容や、安全管理の講義についての評価が高く、狩猟に対する不安の解消や捕獲技術理解の促進に寄与したと想定される。
・参加した狩猟者からは、免許取得後、猟場の確保や他の若手狩猟者と横のつながりを持つことの難しさ、捕獲（技術、仲間）についての不安から実践に踏み出せないという声がきかれた。

今後の方向性

今年度参加者からの意見から、猟場の引継ぎや若手の伴走支援のため、狩猟者内に青年部のような若手組織の設置等により、狩猟者同士の交流の場を増やしていく企画を検討する。また、技術習得のための講習会だけではなく、狩猟本来の楽しさを実感できる実践的な内容の企画を検討する。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	7	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	佐久地域観光振興事業		電話	0267-63-3157、3158
			E-mail	sakuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	星空観光、八ヶ岳、スポーツ合宿など多様な観光資源を有する佐久地域であるが、従来の誘客では観光客の増加が難しい状況の中、今後の観光の目指すべき姿について様々な分野の方と意見交換しながら佐久地域の観光振興の推進を図る。
	現状と課題	佐久地域には、星空観光、八ヶ岳、スポーツ合宿など多様な観光資源があるが、特に南佐久地域では町村の規模が小さく、観光客の受入れ体制に限界がある。 従来どおりの誘客では観光客の増加を図ることが難しく、ブランド化や観光DX化、将来的にはDMOの設立を見据えて、地域全体で広域的な取組みを検討する必要がある。 R6年度の事業実施後のアンケートでは「大変貴重な機会だった」「他の業界の生の声を聴けてよかった」「勉強になった」など、参加者の80%の方に「満足」「やや満足」の回答を得たことから、今年度も2度のワークショップを開催することにより、事業者等との連携を深める。
	内容（変更後の内容）	ブランド化、観光DX化、DMOの設立など、目指すべき佐久地域観光振興に向けて連携していくためのワークショップの開催。 ①講演会・ワークショップの実施（1回目） 広域連携の実例と広域連携の必要性についての講演会と、佐久地域の観光資源を可視化するワークショップを実施。 【日時】令和7年7月23日（水）13:30～16:00 【場所】佐久平交流センター 【講師】株式会社ふろしきや　代表取締役兼まとめ役　田村英彦氏 【参集者】観光事業者、農業関係者など観光以外の事業者、観光に興味がある方など 【参加者数】18名 ②講演会・ワークショップの実施（2回目） アイデアを具体化する手法についての講演会と、第1回目のワークショップで出されたアイデアの具体化を考えるワークショップを実施。 【日時】令和7年12月11日（木）13:30～16:30 【場所】佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」 【講師】株式会社ふろしきや　代表取締役兼まとめ役　田村英彦氏 【参集者】観光事業者、農業関係者など観光以外の事業者、観光に興味がある方など 【参加者数】22名
	事業期間	令和7年6月　～　令和8年1月

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
ワークショップの開催	講演会・ワークショップを2回開催	144,630	
合　計		144,630	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	①1回目ワークショップへの参加者	50名	18名	○達成 ○一部達成 ◉未達成
	②2回目ワークショップへの参加者	30名	22名	

事業実績・成果	・計2回の講演会・ワークショップに管内の行政、観光協会、事業者など延べ40名が参加。 ・周知、広報不足により、目標値の参加人数を得られなかった。 ・講演会は、株式会社ふろしきやの田村 氏を講師に、広域連携の実例やメタ観光視点で「佐久地域でしかできない」観光を作り出す必要性について講演を行い、広域観光への意識醸成を図った。 ・第1回目のワークショップでは、佐久地域の観光資源を可視化し、各観光資源をつなげて、どういったことができるのかのアイデア出しを行った。第2回目のワークショップでは、第1回目のアイデアを元に、具体的な事業内容を考案した。 ・実施後のアンケートでは、「様々な業種の方々の意見が聞けてよかった。」「アイデアをブラッシュアップし、事業に活かしていこうと思う。」など、講演会・ワークショップともに好評を得、異業種間の交流を図る機会にもなった。
今後の方向性	ワークショップで出たアイデアや具体案についての実施可能性を探り、佐久地域の広域観光の推進を図っていく。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	東信州特産品PR事業		電話	0267-63-3157、3158
			E-mail	sakuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	東信州地域で連携し、酒類（日本酒・ワイン・ウイスキー・クラフトビール等）や特産品の魅力発信・販路拡大・広域観光の推進を図る。
	現状と課題	・東信州エリアには全国トップクラスの品質を誇るワインを醸造するワイナリーや、日本酒の酒蔵、クラフトビール・ウイスキーの蒸留所が集積し、観光客等を引き付ける魅力がある。 ・その魅力を活かし、エリア内で観光客の半数が訪れている軽井沢や白樺湖周辺への観光客や滞在者をターゲットに良質な酒類のPR活動を行い、消費と誘客の拡大を図ることが必要。 ・また、若い世代の日本酒離れが顕著になっており、20代・30代に対して日本酒を飲んでもらえるような仕掛けをしていく必要がある。
	内容（変更後の内容）	①特産品PR事業 ▼しなの鉄道観光列車「ろくもん」を貸し切り、東信州地域の特産品（酒類・農畜産物加工品等）を提供・PRするツアーを実施。 【実施日】令和7年11月8日（土） 【運行区間】軽井沢駅から上田駅まで 【ターゲット層】東信州の特産品に関心を持つ県内外の消費者等 【参加者数】43名 【内容】 ・「ろくもん」停車駅（小諸駅）で懐古園ガイドツアー観光 ・車内での佐久地域特産品の提供（お弁当、お菓子、日本酒、ワイン、ウイスキー） ・車窓からの景観や、提供する料理等を解説する車内放送 ▼小諸蒸留所ウイスキーフェスティバル2026に特産品PRブース出店。 【出店日】令和8年3月20日～21日 【場所】ほんまち町屋館（小諸市） 【PRした特産品】チーズ（チーズの試食会を実施） ②ShinXia（大学生）と連携した佐久地域日本酒振興プロジェクト事業 【実施期間】6月～2月（2月に地域貢献・地域活性化学生フォーラム2025で成果発表） 【場所】佐久大学、佐久地域内の酒蔵 等 【参画者数（大学生）】4名 【内容】 ・ShinXiaに関わる大学生による「日本酒に興味・関心を持ってもらうにはどうしたらよいか」の企画案の作成 ・企画案を作成・発表するために、酒蔵見学、日本酒関係者等との意見交換をするフィールドトリップを実施（3日間） ※ShinXia：「地域活性化人材」を育成する仕組みであるSPARC（文科省・経産省が推進する事業）の内、信州大学・長野大学・佐久大学が連携して、「しあわせ信州」を創造し、学生の主体性をどう引き出すかを追求する地域活性化高度人材育成プログラム
	事業期間	令和7年5月　～　令和8年3月

（単位：円）

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
	特産品PR事業	しなの鉄道ろくもん貸切列車ツアー	1,211,600	
	〃	特産品PRブース出展	21,918	
	ShinXia（大学生）と連携した佐久地域日本酒振興プロジェクト事業	「若者が最初に飲むべき日本酒」開発事業	256,959	
	合　計		1,490,477	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	①ツアーの参加者数	50名以上	43名	○達成 ◉一部達成 ○未達成
	②企画案作成数	1件以上	2件	

事業実績・成果	・しなの鉄道観光列車ろくもんを活用して、長野県内外からの参加者に車窓から秋の東信州（軽井沢～小諸～上田）の風景と、小諸市の懐古園ガイドツアーを楽しんでもらうとともに、佐久地域の日本酒・ワイン・ウイスキー・お弁当（佐久地域の食材を使用）を提供し、東信州の特産品をPRした。 ・主に受託事業者の広報媒体（HP、SNS）での告知を実施。広報が限定的になったのと、ツアー当日のキャンセル等により目標値の参加者数を得られなかった。 ・ツアー実施後のアンケートでは「大満足」が3割、「満足」が7割の結果を得、満足度の高いツアーとなった。 ・ShinXia（大学生）に関係する学生と佐久地域の日本酒関係者との意見交換を行うフィールドトリップを実施し、「日本酒に興味・関心を持ってもらうにはどうしたらよいか」という課題に対する企画案をいただいた。また提案に至るまでの酒蔵見学や有識者からの解説等を通じ、佐久地域の日本酒について周知することができた。
今後の方向性	佐久地域の特産品や酒類の魅力を、イベント等各種機会を通じて継続的にPR・発信していく。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C
横断的な課題	「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり				
地域重点政策	「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	企画振興課
事業名	佐久地域の移住スタイル発信事業		電話	0267-63-3132
			E-mail	sakuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	佐久地域の新しい働き方や、移住者と子育てに係る支援策等を発信することで、移住促進及びつながり人口の増加を図る。
	現状と課題	○佐久地域には風越学園や大日向小中学校など特色ある教育を行う学校や、やまほいくを実践する保育園や幼稚園、南相木村と北相木村における山村留学など、多種多様な教育が行われており、教育移住も注目されている。 ○地域ごとに仕事・ライフスタイルに特徴があり、生活圏が広域的であることから、市町村を超えた取組みを行うことで多様な選択肢を示すことができる。 ○令和6年度に開催した移住相談会では31組67名が参加し、事後アンケートからも佐久地域の複数の市町村・教育団体への相談を一度に行えることに需要があるため、引き続き移住相談会を開催する必要がある。 ○佐久地域への移住者数は令和6年度に782人で、広域別で県内1位となるなど佐久地域への移住の需要は高く、今後も引き続き、佐久地域の情報発信を実施することが必要である。
	内容（変更後の内容）	○移住相談会の実施 佐久地域への移住者が多い首都圏において、市町村や特色ある教育に取り組んでいる団体を集めて対面形式の相談会を開催し、移住希望者等に直接佐久地域の魅力をPRする。 【日時】令和7年10月25日（土）13:30～16:30 【場所】ビジョンセンター東京八重洲（東京都中央区） 【参集者】首都圏で長野県への移住に興味がある方（定員30組60名程度） ○移住ガイドブックの増刷 移住促進を目的に、令和6年度に「佐久地域移住ガイドブック」を制作し、管内市町村や銀座NAGANO、信州暮らしサポートデスクなどに配布したところ、移住希望者から好評を得ており、冊子が不足していることから、更なる情報発信に繋がるようガイドブックを増刷する。 【増刷部数】500部（令和6年度は1,500部印刷） 【配布先】銀座NAGANO：200部、信州暮らしサポートデスク：200部、佐久地域振興局：100部
	事業期間	R7.6　～　R8.3

（単位：円）

事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
	移住個別相談会	市町村及び特色ある教育を行っている団体を集め、面談形式の個別相談会を実施する	376,993	
	ガイドブック増刷	ガイドブックの増刷（紙）	89,100	
	合　計		466,093	

指標及び達成状況	成果指標	目標値	成果	達成状況
	移住相談会参加者数（令和6年度：31組）	30組以上	24組	○達成 ◉一部達成 ○未達成
	移住相談会参加者のアンケート満足度（令和6年度：93%）	80%以上	92%	

事業実績・成果	【移住相談会】 ・34組77名の予約があったが、当日キャンセル等により最終的に24組46名となった。 ・移住相談会参加者アンケートを実施したところ、24組中13組の回答が得られた。満足度の内訳は満足が8組、少し満足が4組、不満が1組で、不満と回答した理由は「相談時間が短い」というものであった。 ・アンケートには「インターネットでの情報収集では分からない情報が得られた」「実際に住んでいる人やスタッフの体験談が聞けて良かった」「1会場で複数の市町村の話を聞くことができるのが良い」といった意見が寄せられた。 ・個別相談により、移住希望者の具体的な疑問に回答することができ、佐久地域への移住に対する不安を解消することができた。 ・教育移住を検討している方に対して、学校所在地の市町村だけでなく周辺市町村についてもPRすることができた。
今後の方向性	・個別相談や学校団体のセミナーの時間の延長を求める声が多かったことから、全体的に時間配分を見直し、満足度を高めていく。 ・予約ページ等に市町村の紹介動画や資料などを掲載することで、予約の段階から移住先の選択肢を広げてもらえるよう工夫していく。 ・今年度の参加者に対して、1年後に状況調査を実施し、その後の検討状況などを捕捉していく。 ・移住ガイドブックも活用しながら、佐久地域への移住を積極的にPRしていく。 ・市町村や学校団体と意見交換をする場を設け、教育移住を含め移住施策を推進する。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	C
横断的な課題	「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり				
地域重点政策	「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	企画振興課
事業名	若者向け佐久地域企業PRブックの作成		電話	0267-63-3132
			E-mail	sakuchi-kikaku@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	地元企業のPRブックを作成することで、就職前の学生に地元での就職を意識させ、就職による人口流出を減少させる。
	現状と課題	・長野県では、就職を契機とした人口流出が多い（男女とも20～24歳で流出最多（R2国勢調査））。 ・一方、地元へのUターン就職を希望する学生は6割程度いる（マイナビ2025年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査）。 ・佐久地域では中小企業が多く、一部の大手企業を除き、若年女性の目線に立った形でのPRができていない。 ・地元企業について、若者（特に女性）が求める形で、求める情報を提供する媒体が必要。
	内容（変更後の内容）	・地元企業で働く女性のインタビューや、就職活動において若者（特に女性）が重視するポイントを満たす地元企業をまとめて紹介するPRブックを作成し、域外へ出た学生が地元に集まる旧成人式などの機会をとらえて配布した。 ・PRブックの掲載内容はwebでも公開し、幅広く就活生の情報収集に貢献できるようにした。 【PRブック概要】 掲載内容：若手従業員のインタビューや具体的な仕事内容、福利厚生、給与、休暇情報のほか、「シューカツNAGANO」の紹介など 仕様：A4、16ページ、4色フルカラー （当初分作成・配布概要） 作成部数：2000部 配布時期：令和8年1月（佐久管内では6市町村が旧成人式を1月に開催） 配布方法：管内市町村に配布の上、市町村から旧成人式等で対象者に配布 （増刷分作成・配布概要） 増刷理由：1月に配布し、各種会議での紹介や新聞2紙で記事になるなど、一定の周知を行えたが、配布対象者が限られていたため、対象を県内の大学等に拡大して配布した。 作成部数：2,000部 配布時期：令和8年3月 配布方法：管内市町村、大学等に配布
	事業期間	R7.5　～　R8.3

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
PRブック作成	企画・取材・デザイン・印刷	858,550	
合　計		858,550	

指標及び達成状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
「佐久地域の企業への関心が高まった」と回答した割合 ※PRブックにアンケートを添付	70%	100%	◉ 達成
			○ 一部達成
			○ 未達成

事業実績・成果	・アンケートの回答数は8件と多くないが、「佐久地域の企業への理解や関心が深まったか」という問いに対して、とてもそう思うが6件、そう思うが2件という結果であり、地元企業や地元での就職への理解増進に寄与することはできた。 ・新聞記事を読んだ中学校の図書司書の方から「職業学習に活用したい」との申し出があり、佐久市内の7校にも配布した。これにより、就職を控えた年齢層だけでなく、中学生のうちから佐久地域の企業を知ってもらい、地元での就職を選択肢としてもらう機会につながった。
今後の方向性	地元での就職を積極的に検討してもらえるよう、旧成人式や大学校のキャリアサポート室だけでなく、高校生や中学生などにも幅広く配布していく。

（様式第2号）

地域振興推進費事業計画・自己評価書　（実績）

提出区分	実績	整理番号	11	課題区分	C
横断的な課題	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				
地域重点政策	「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり				

佐久地域振興局

実施機関	佐久地域振興局	担当課	所属	商工観光課
事業名	佐久っとサイクルプロジェクト事業		電話	0267-63-3157、3158
			E-mail	sakuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp

事業の概要等		
	目的（目指す姿）	長野県一周ルートを推進する「Japan Alps Cyclingプロジェクト」に連動して、佐久地域にサイクルツーリズムを定着させるため、佐久地域の魅力を盛り込んだ推奨ルートの作成と利活用により、サイクルツーリズムの推進を図る。
	現状と課題	・佐久地域は、ヒルクライム等の自転車イベントが複数定着しており、また、地域のほとんどの場所で浅間連峰や八ヶ岳の眺望がきき、サイクリングにとって絶好のロケーション。令和3、4年度に佐久地域産カラマツ材を使用したサイクルラックを計31基製作。管内の休憩スポット等に設置しているが、野ざらし状態のものが多く、特に令和3年度製作のラックは劣化が進んでいる。 ・ラックは佐久地域でのサイクルツーリズムに必要不可欠であり、県内外の多くのサイクリストが快適かつ安全に利用できるためにはメンテナンスが必要。
	内容（変更後の内容）	・特に劣化が進んでいるラック7基を適切にメンテナンスし、サイクリストが安全かつ快適に利用できる状態にすることで、佐久地域でのサイクルツーリズムの推進を図った。 ・メンテナンスに合わせ施設管理者に利用状況やサイクルツーリズムに関するご意見を聞き、サイクルラック(※)の設置場所変更の検討や多くの方に使用いただきやすいような取組を検討した。 ・メンテナンス後は、再度、魅力発信ブログにより情報発信を行い、周知を行った。 ※サイクルラック：スポーツタイプなど自立が困難な自転車を整理して駐輪するためのスタンド設備 【メンテナンス対象基】 ラック31基中、劣化の進んでいる7基 【メンテナンス期間】 1月～3月
	事業期間	令和7年12月　～　令和8年3月

事業費等

（単位：円）

事業を構成する細事業名等	実施内容	計画（実績）額	備考
サイクルラックのメンテナンス	特に損傷が激しい6基にメンテナンス（塗装等）を実施。	212,855	
合　計		212,855	

指標及び達成状況

成果指標	目標値	成果	達成状況
メンテナンスが完了したラック数	7基	7基	◉達成
情報発信(佐久っと通信ブログ)における閲覧数	120以上	144	○一部達成
			○未達成

事業実績・成果	・事業者にサイクルラック7基の木部表面研磨、塗装、ネジとボルト締め付け調整を実施。安全かつ利用者が安心して使用できる状態にした。 ・サイクルラックのメンテナンスについて県ブログを掲載し、ラックの設置場所と積極的な利用について情報発信した。
今後の方向性	・佐久地域のサイクルコースやラックについて積極的に情報発信し、佐久地域のサイクルツーリズムの推進を図る。